Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MAG022-P02 会場:コンベンションホール 時間: 5月27日17:15-18:45

フィリピンにおける台風オンドイ、ペペンによる現地災害調査報告

Field Research on Typhoons Ondoi and Pepeng in the Philippines

井口隆[1], 中須 正[1*], 佐藤照子[2], 下川真也[1], 渡邉暁子[3]

Takashi Inokuchi[1], Tadashi Nakasu[1*], Teruko SATO[2], Shinya Shimokawa[1], Akiko Watanabe[3]

[1]防災科学技術研究所, [2]常盤大学, [3]東洋大学

[1]NIED, [2]Tokiwa Univ., [3]Toyo Univ.

2009年9月末から10月初旬にかけてフィリピンのルソン島各地を襲った台風ケッツァーナ（現地名オンドイ）及びパーマァ（現地名ペペン）の一連の台風は、フィリピン史上最悪といわれる被害をもたらした。台風ケッツァーナでは、台風と集中豪雨により、マニラ首都圏の約80パーセントが浸水し市民に多大な被害を及ぼした。死者は、337名、行方不明37名、被災者は400万人を超える（2009.10.8）と報告されている。続く台風パーマァでは、北部のコルディレラ地方を中心に４０箇所を超える土砂崩れなどの被害により、死者433名、行方不明184名、他地域を含めた被災者総数は、約380万名にのぼる（2009.10.18）など大きな被害を受けた。本調査は、このフィリピンにおける一連の台風ケッツァーナ及び、パーマァによる被害実態、特に、台風ケッツァーナにおけるマニラにおける都市型水災害の実態、及び続く台風パーマァにおける地方都市、特にバギオ市における土砂災害の実態を明らかにするとともに、今後の調査研究の基礎的データとなる情報を可能な限り収集するために行われた。

調査の実施は、2009年11月26日から12月3日まで、マニラ首都圏及びバギオ市並びにベンゲット州にて、フィールド調査とインタビュー調査を行った。フィールド調査では、被災地を訪れ災害状況や洪水制御施設について調査するとともに、住民等へのヒアリングを行った。インタビュー調査では、関連機関を中心に、特に、被害の社会的・自然的背景、被害状況、及び災害対応などについて体系的なインタビューを実施した。

以上の調査から①災害を引き起こした自然環境特性はどのようであったか。②土砂災害は何故拡大したのか。③台風及び集中豪雨により都市が何故冠水したのか。④政府及び自治体による災害対応はどのようになされたのか。⑤住民はどのような行動をとったのか。⑥被害はどのように拡大し、進行しているのか。⑦国内、国際援助機関やNGOはどのように対応しているのか、についての疑問に対する概観、及び災害に関する基礎的データや情報ソースとしての人材に関わる情報を収集することができた。

キーワード:フィリピン,台風災害,地すべり,洪水,災害対応,被害者

Keywords: The Philippines, Typhoon Disasters, Landslides, Floods, Disaster Response, Disaster Victims